

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|------------------------------------|-----------------|---------------------------|
| 課題番号 | 23222001 | 研究期間 | 平成23年度～平成27年度 |
| 研究課題名 | 仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集（バウツダコーシャ）の構築 | 研究代表者 （所属・職） | 斉藤 明（東京大学・大学院人文社会系研究科・教授） |

【平成26年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 | |
|---|--------------------------------|---|
| A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる | |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>（意見等）</p> <p>本研究は、主要な仏教用語の用例を精査し、基準となる現代語訳を提示しようとするものであり、組織的取り組みと労力を要する困難な課題であるが、現時点でいくつかの重要な進展があり、研究は概ね順調である。</p> <p>仏教思想の的確な理解のためには精確な仏教用語の定義と用例の検証が不可欠である。本プロジェクトはそれを徹底的に遂行し、研究は着実に進行している。また、本研究は、インド仏教の中国的変容を見る上でも、日本仏教の教学的展開を見る上でも有益な視点を提供するものであり、本研究の意義は大きい。</p> <p>なお、研究組織のより一層の有機的連携が今後望まれる。</p> | | |